

2016年3月22日

「草の根・人間の安全保障無償資金協力」

サンパウロ州サンパウロ市

「サンタ・クルス病院医療機材整備計画」

に対する草の根・人間の安全保障無償資金協力の贈与契約署名式について

在サンパウロ日本国総領事館

去る3月16日(水)当館において「サンタ・クルス日伯慈善協会サンタ・クルス病院」(以下、サンタ・クルス病院)に対する我が国草の根・人間の安全保障無償資金協力の贈与契約署名式をレナット・石川理事長及び当館中前隆博総領事との間で行いました。

●出席者の挨拶:

中前隆博総領事:「今回、日本政府から新たに医療機材を整備するために無償資金協力を行う。一昨年8月の安倍首相訪伯時の日系社会支援並びに医療・保健分野における日伯両国間の協力促進の表明のフォローアップとして実現したもの。これまでの日系病院としての貴団体の活動に敬意を表する。この資金協力による機材の整備によって、日系病院という枠から更に地域の中核病院として末永い活動に資することを祈っている。貴団体の益々の発展に少しでも貢献できることは我々にとっても大変な喜びである。」と祝辞を述べました。

レナット・石川理事長:「私達は、医療機材の整備のために日本国政府に支援をしていただいたことに心から感謝申し上げます。今回供与される機材は全て日本企業が生産している機材である。当病院をショーウィンドウとして日本の医療機材やそのメーカーがブラジルに広まることを希望する。今回の支援で改めて日本政府の私達に対する期待を感じた。これまで以上に日系社会に貢献する存在となるよう努力していきたい。」と謝辞を述べました。

●案件概要: サンタ・クルス日伯慈善協会・サンタ・クルス病院は1926年に設立され、現在はベッド数166、医療チームとして約2,000人の医師が登録されており、これらの医療チームは専門知識を有するハイレベルの有資格者であり、病院が提供するサービスに全幅の信頼が寄せられています。

サンタ・クルス病院の2014年の診察数は、112,178件であり、当該病院は年間約14,721件の手術を行っていますが、各種医療機材の老朽化が進んでいたため治療に対応できる最新の機材の整備を要望していました。

今回の協力は、心電図配録器(2)、モニター(20)、セントラルモニター(1)、除細動器(2)、ファイバースコープ(1)、ストレッチャー(20)及び外科手術用スコープ(1)の整備に対し支援を行うもので、草の根・人間の安全保障無償資金協力として、400,982米ドルを限度に資金を供与しています。この医療機材の購入により、より高度な治療が可能になることで地域社会への貢献等が期待されます。なお、今回の供与機材は全て日本の医療機器メーカーの機材です。



左より中前総領事、レナット・石川理事長



右より中前総領事、石川理事長、フェルナンデス院長、山野技術部長、ニッタ事務長、北原医長

(お問合せ先) 在サンパウロ日本国総領事館経済班

(0xx11)3254-0100